

文部省学術フロンティア共同研究プロジェクト

「子育て環境と子どもに対する意識調査」報告書

2001年2月

甲南大学子育て研究会

文部省学術フロンティア共同研究プロジェクト
「子育て環境と子どもに対する意識調査」報告書

目 次

はじめに	1
調査の概要	2
第1章 基礎統計	3
0 回答者について	3
I 子どもについて	4
II 出産前後の母親の状態について	7
III 回答者の育児に対する気持ちや子育ての状況について	8
IV 育児をめぐる回答者の家族への思いについて	9
V 回答者の子ども時代の生育状況について	10
第2章 育児ストレスと母子をとりまく諸条件との関連	13
第3章 自由記述の分析	20
おわりに	25
資料（調査質問紙）	26
研究会メンバー一覧	32

はじめに

昨年11月20日に児童虐待防止法が施行されましたが、今年に入ってから幼児虐待のニュースが相次いで報道されています。そのような事態が生じる一つの背景として、近年の都市化、核家族化の進行等により、家庭における子育ての孤立化がおこり、養育者のストレスが高まっていることが挙げられるでしょう。

甲南大学では、文部省の学術フロンティア共同研究プロジェクトの一環として、平成12年度より子育て研究会を組織し、乳幼児をもつ保護者を対象に、子育て環境と子どもに対する意識調査を実施いたしました。本報告書は、その調査から得られた基礎資料と、分析結果をとりまとめたものです。これらを今後さらに詳しく検討し、育児支援について考えていきたいと思っております。

調査の実施に当たっては、各保育所、幼稚園並びに、保健所、産婦人科の先生方にご協力いただきました。深く感謝いたします。また、この調査にご回答いただきました保護者のみなさま方に厚く御礼申し上げます。

平成13年2月

甲南大学学術フロンティア子育て研究会代表

甲南大学文学部人間科学科教授 松尾 恒子

調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、今日の子どもと母親(または主たる養育者)が置かれている環境や、母親たちの育児に対する考えを知り、子どもの育児環境を把握することを目的とした。

2. 調査の設計

(1) 調査対象

阪神間およびその周辺に在住する、平成12年春現在、乳幼児を子育て中の母親および家族(質問紙は、回答者を母親と想定して作成した)。

(2) 調査期間

平成12年3月から7月

(3) 調査方法

直接配布、郵送回収(一部直接回収)による自記式配票調査法

(4) 回収状況

有効回収票 1175 票

公立保育所	448
公立幼稚園	297
私立幼稚園	92
保健所	80
産婦人科他	258

有効回収率 43.5%

第1章 基礎統計

0回答者について

図0-1 親年齢(養育者)

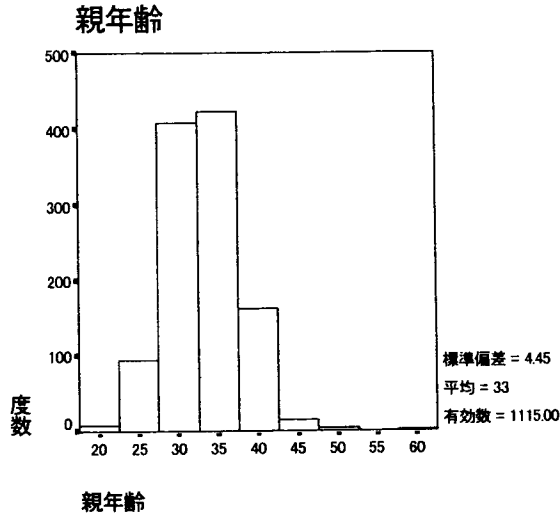


図0-3 家族構成

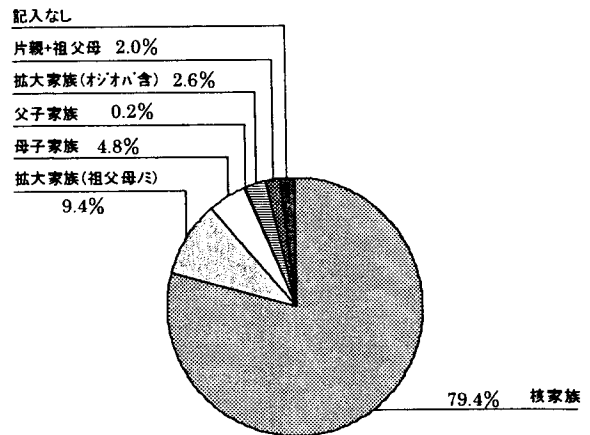


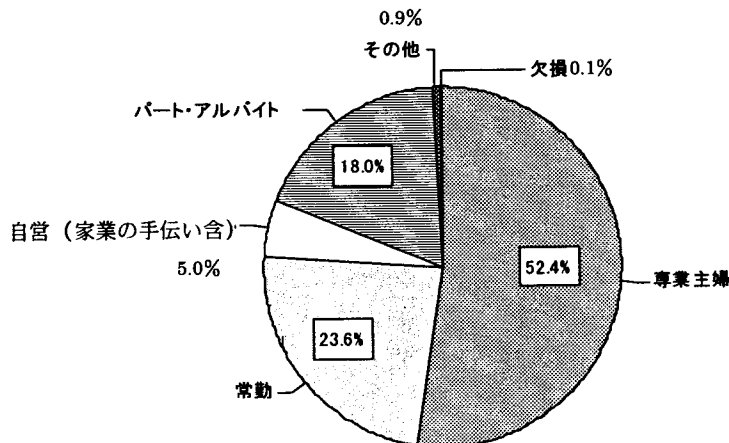
表0-1 親の続柄

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	母	1161	98.6	98.8	98.8
	父	13	1.1	1.1	99.9
	祖母	1	0.1	0.1	100.0
	合計	1175	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	2	0.2		
合計		1177	100.0		

図0-1~3、表0-1に、回答者の年齢、子どもとの続柄、職業、家族構成を示す。

回答者の年齢は30代が最も多く、次いで40代前半、20代後半が多い。回答者のほとんど(98.8%)は母親であった。回答者の約半数は専業主婦であり、常勤、パートまたはアルバイト、自営の順に続いている。家族構成は、核家族が約8割を占めている。

図0-2 親の職業



I 子どもについて

図 I-1-a きょうだいの数と出生順位

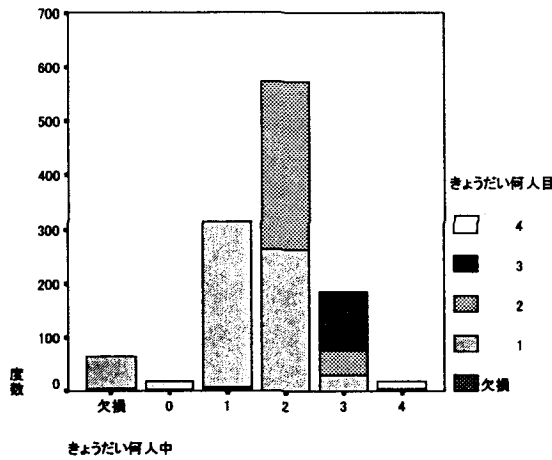


図 I-1-b 子どもの性別

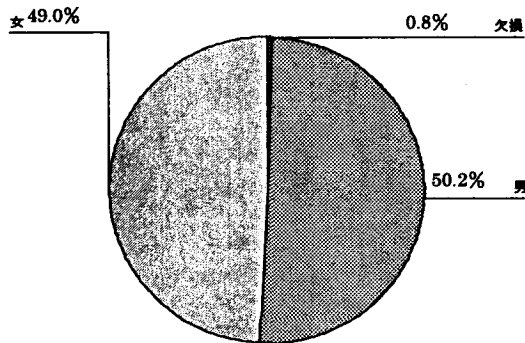


図 I-1-c 子どもの年齢

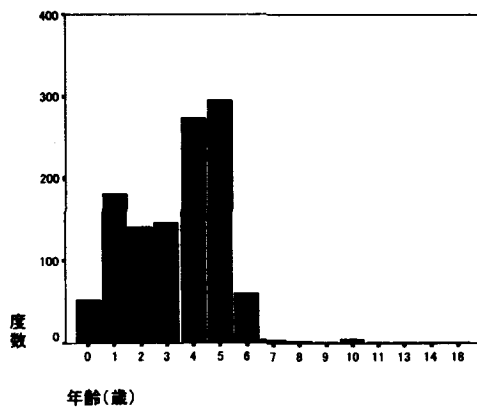


図 I-1~11 に、本調査 I の各項目に対する回答の度数分布を示す。

子どもの出生順位は、一人っ子が最も多く、二人きょうだいの長子、二人きょうだいの第二子が、それぞれ 3 割近くを占めており、半数以上は長子に関する回答が得られている。

子どもの性別は男子が女子を僅かに上回る程度であり、性別に関してほとんど偏りは見られない。子どもの年齢は、6 歳以下が 98.5% を占めた。

妊娠中・出生時の問題は、「なかった」が 9 割程度、出生時の人数は、ほとんど(97.1%)が一人で、体重の平均は 3080g(SD=413.69)、出産の時期は満期産が 76%であった。

出産施設は、産婦人科医院が 54.9%、総合病院が 42%と、一般の傾向に比べて産婦人科医院の比率がやや高くなっているのは、本調査が保育所・幼稚園などの他に、産婦人科医院でも行われたことが影響していると思われる。出産形態は、約 8 割が普通分娩であった。

出産時に父親が立ち会ったという回答は 33.1%あった。立ち会いの有無を決める要因として最も多かったのは、「母親の希望」(44.6%)であった。

「生まれてすぐ泣いた」との回答が 92.1%を占めた。出産後は、母子同室でなかったものが約半数であり、1 日後から、直後から、2 日後から同室との回答が、それに続いている。

図 I - 2 妊娠中および出生時の問題

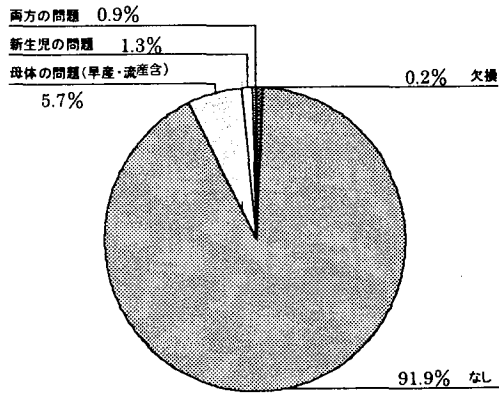


図 I - 5 出産の時期

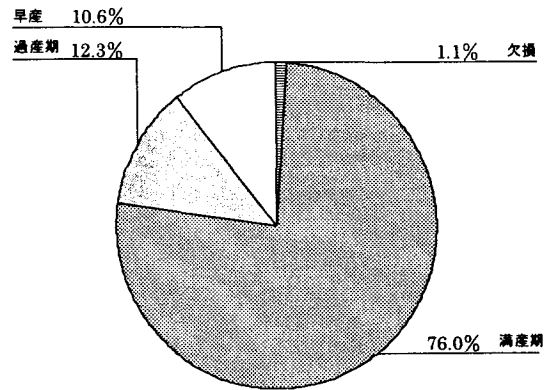


図 I - 3 出生時の子ども数

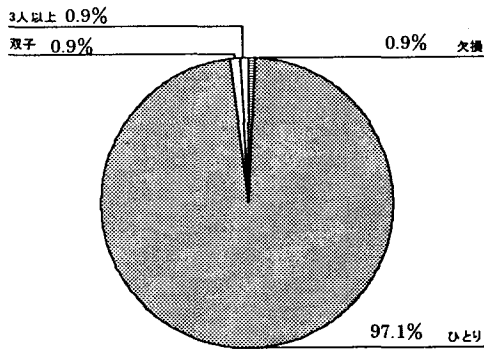


図 I - 6 出産した施設

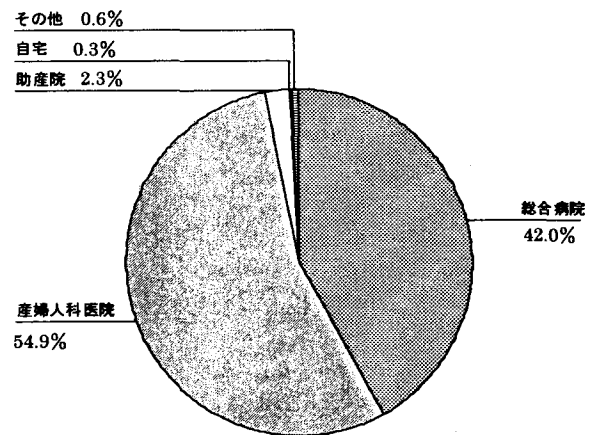


図 I - 4 出生時の体重

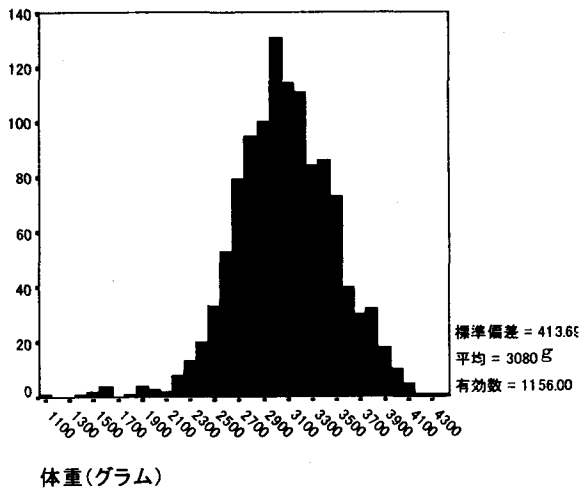


図 I - 7 出産の形態

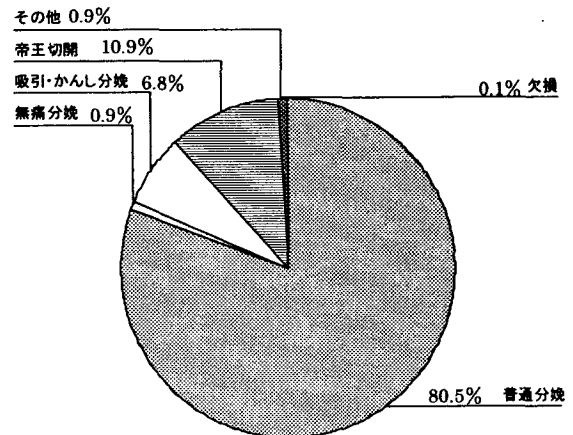


図 I-8 父親の立会いの有無

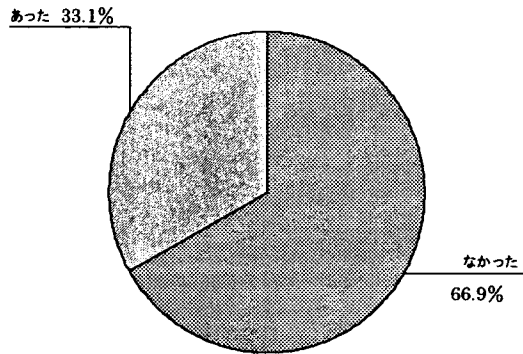


図 I-9-c 父親の立会い希望

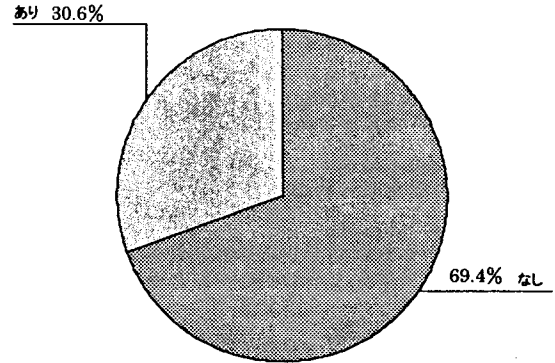


図 I-9 立会いの有無を決める時

図 I-9-a 病院の方針

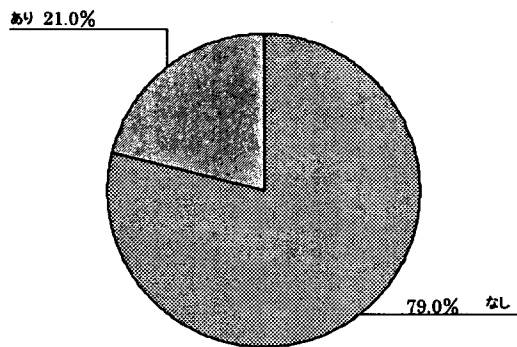


図 I-10 生まれてすぐ泣いたか

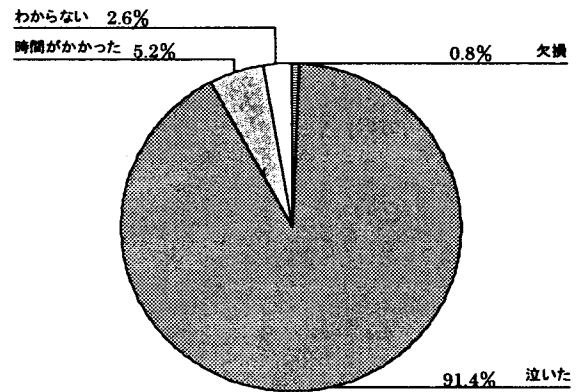


図 I-9-b 母親の立会い希望

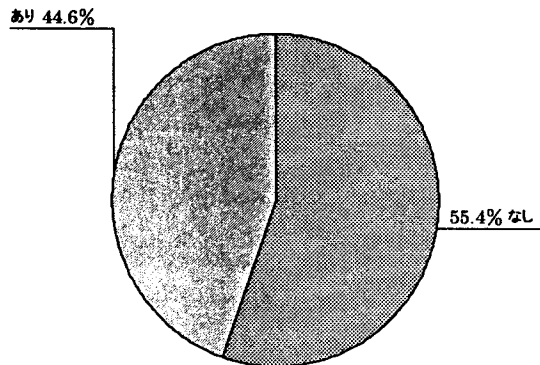
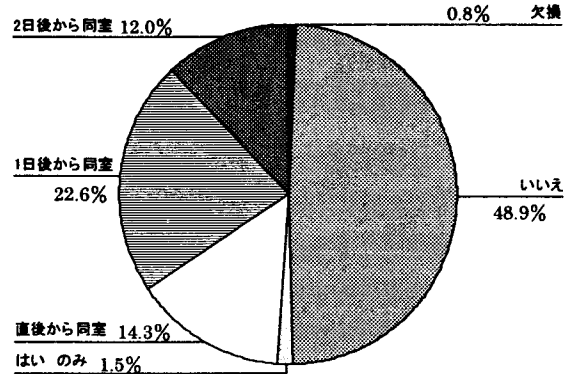
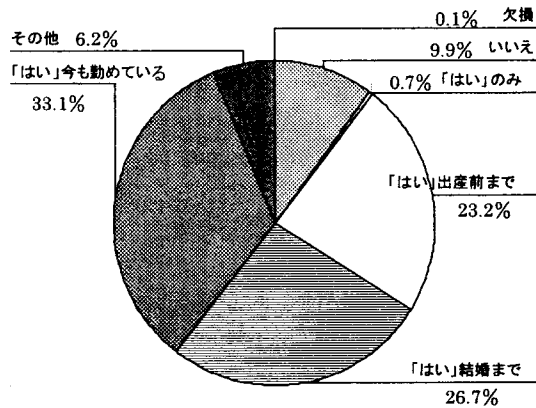


図 I-11 母子同室

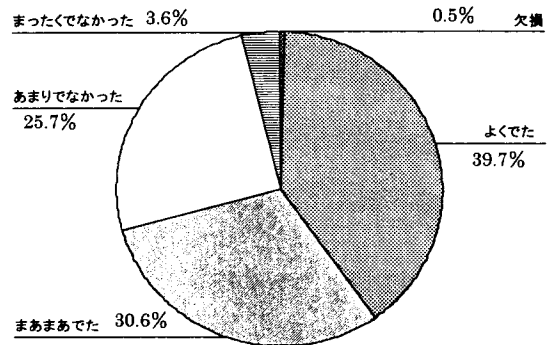


II 出産前後の母親の状態について

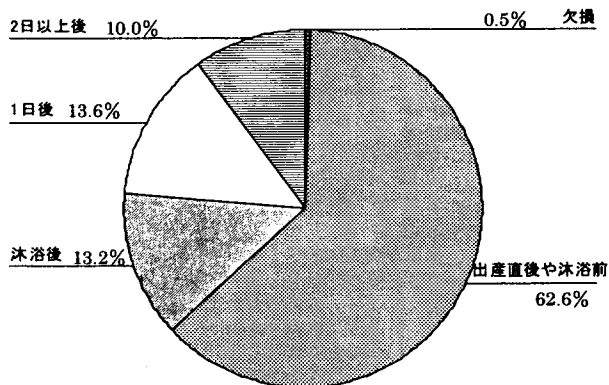
図II-1 母親の仕事



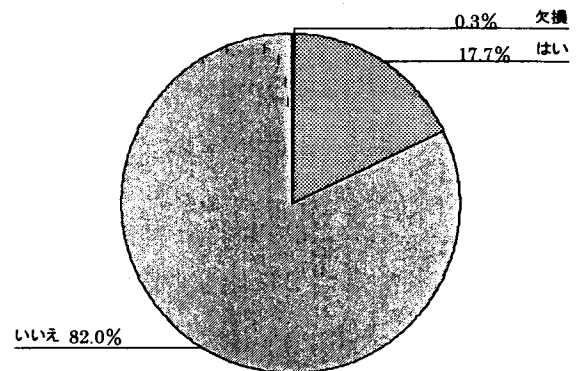
図II-4 母乳の量



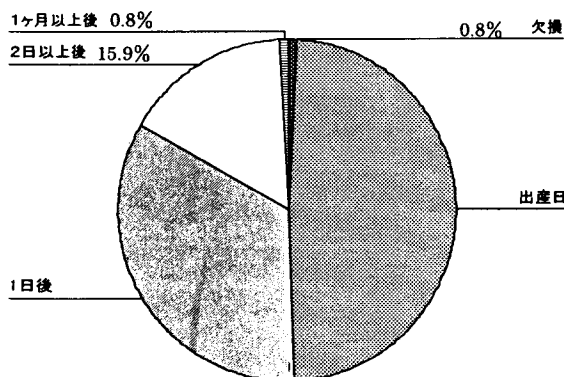
図II-2 はじめて子どもを抱いたのは



図II-5 出産後体調を崩したか



図II-3 はじめての授乳



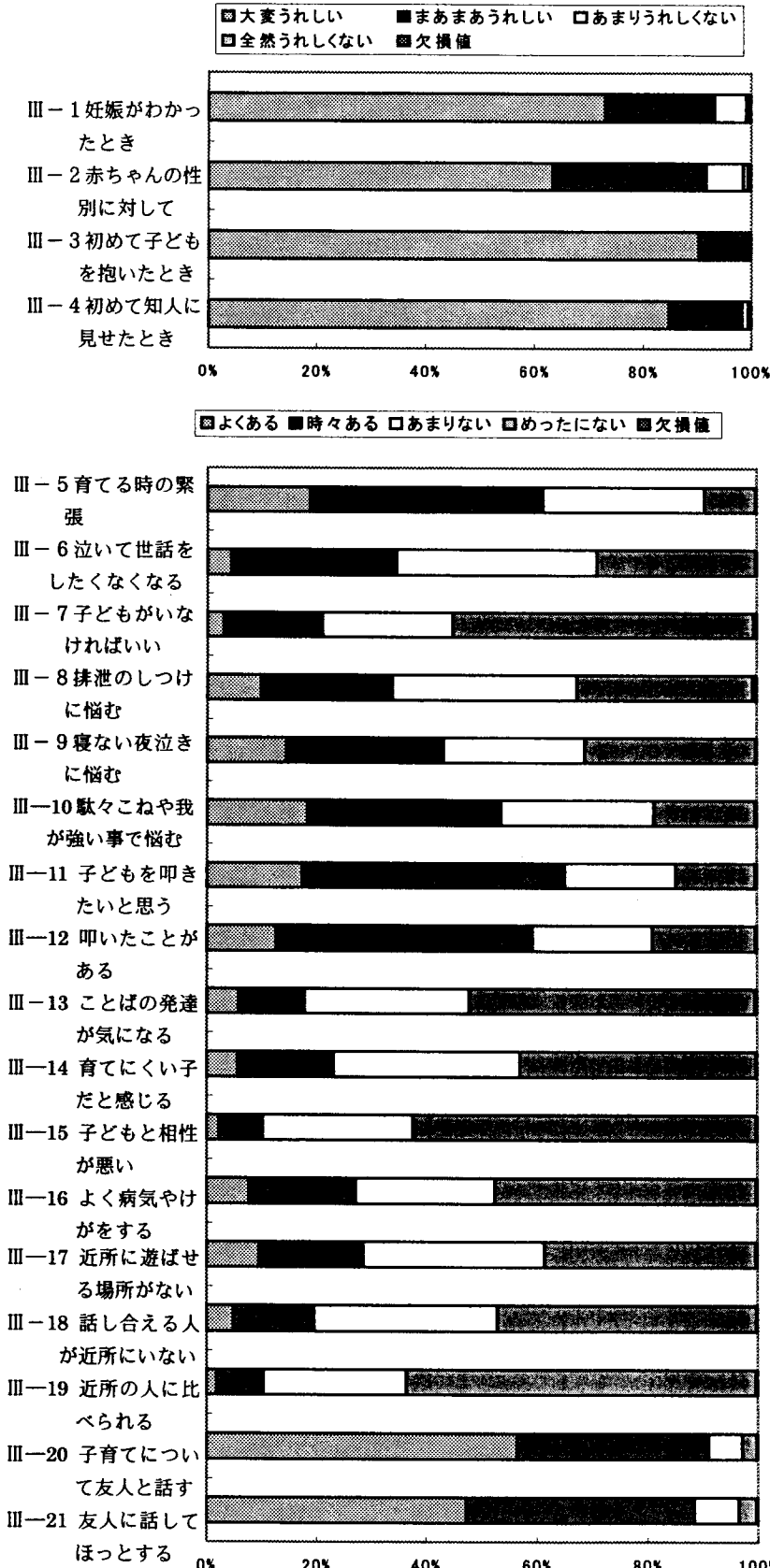
図II-1~5に、本調査IIの各項目に対する回答の度数分布を示す。

およそ9割の母親が勤務の経験を持っているが、約半数が出産ないし結婚までに退職した経験を持っている。

はじめて子どもを抱いた時期は、出産直後・沐浴前が6割程度であり、はじめての授乳は、出産日が約半数、1日後が34%であった。これらの回答については、出産した施設の方針との関連が考えられる。

出産後の母乳の量については、「よくでた」、「まあまあでた」、「あまりでなかった」の間で回答が分かれている。出産後、体調を崩したかどうかについては、「いいえ」が約8割であった。

III回答者の育児に対する気持ちや子育ての状況について



左図に、本調査 III の各項目に対する回答の度数分布を示す。

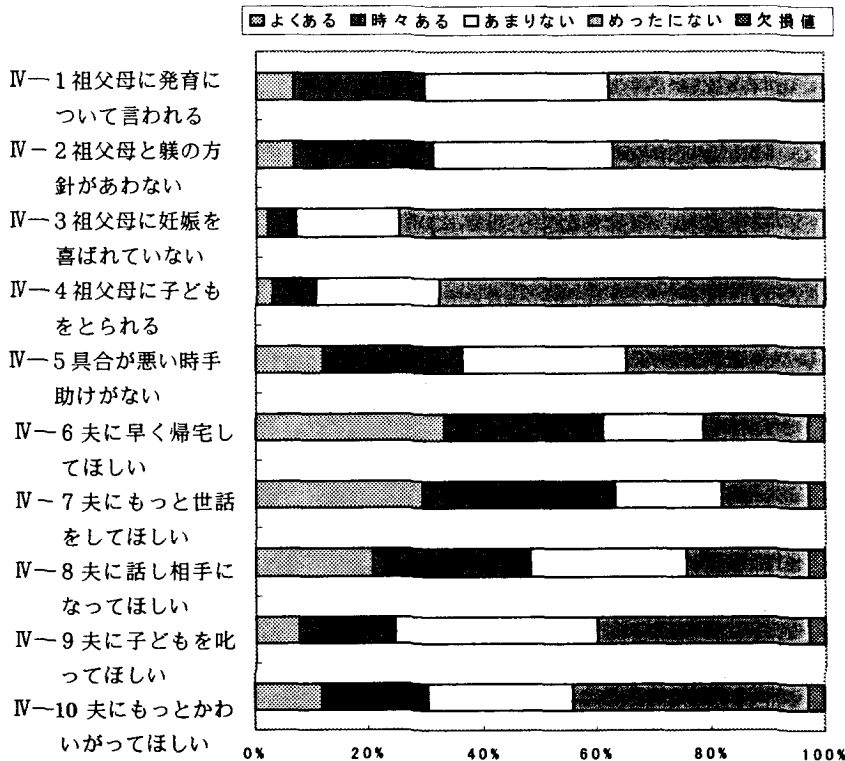
項目 1~4 では、妊娠・出生時に「はじめて」抱く気持ちについて尋ねているが、いずれも「たいへんうれしい」がもっとも多く、「まあまあうれしい」を含めると、うれしさを感じたという回答がほとんどを占めている。

項目 5~19 では、子育てに関する悩みや困難の体験に関連している。項目 5 では、子育て全般に関する緊張について尋ねている。「めったにない」との回答は最も少なく、「ときどきある」を中心に、回答者の多くが何らかの緊張を感じていると考えられる。項目 6、8、9、10 では、子どもが泣くとき、排泄のしつけ、夜泣き、だだをこねるなど、それぞれ子どもの世話に関するより具体的な局面で困惑した体験について尋ねているが、「よくある」がもっとも少なく、「ときどきある」「あまりない」「めったにない」の間で回答が分かれている。

項目 7、13、14、15、16 では、子どもとの相性の悪さや、病気等についての悩みを尋ねているが、いずれも「めったにない」が最も多かった。項目 11、12 では、子どもを叩きたいと思ったこと、実際に叩いたことについて尋ねているが、両方とも「ときどきある」が最も多かった。

項目 17~19 では、遊び場や人間関係といった、「近所」の子育て環境に関する悩みを尋ねているが、いずれも「めったにない」が最も多い。項目 20、21 では友人との関係について尋ねているが、「よくある」「ときどきある」を合わせると、ほとんどの回答者が、子育てに関して身近な友人からのサポートを得ていると考えられる。

IV 育児をめぐる回答者の家族への思いについて



左図に、本調査 IV の各項目に対する回答の度数分布を示す。

項目 1 から 4 では、子育てに関して祖父母との間で悩んだ体験を、それぞれ「子どもの発育状態」、「しつけの方針の違い」、「妊娠に対する反応」、「子どもをとられるような不安」について尋ねているが、いずれも「よくある」が最も少なく、「めったにない」が最も多かった。項目 1、2 では「あまりない」あるいは「めったにない」と答えた人が全体の 2/3、項目 3、4 では「めったにない」と答えた人が 7 割前後と、全般に、祖父母との間では「困らなかった」「悩まなかった」と答えている人がかなりの割合を占めている。

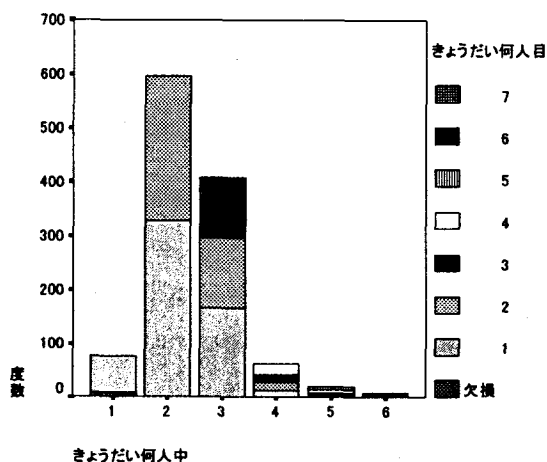
項目 5 では、想定する家族を特定せずに「手助けしてもらえない人がなくて困ったこと」を尋ねているが、祖父母との関係における回答と同様の結果となった。

項目 6 から 10 では、子育てに関する夫への不満について尋ねている。分布を見ると、項目 6「もっと早く帰宅してほしい」と項目 7「もっと子どもの世話をしてほしい」については、「よくある」あるいは「ときどきある」と答えた人が全体の 2/3 を占めており、夫の子育てへのかかわりに不満を感じている人がかなりの割合を占めている。これに対し、項目 8「もっと子どものことで話し相手になってほしい」は「よくある」「ときどきある」と答えた人と、「あまりない」「めったにない」と答えた人がほぼ半数ずつに分かれている。前者は、夫に子育て業のパートナーシップを求める気持ちとして捉えられるが、後者は、例えば、夫のパートナーシップに満足している場合と、逆に夫婦間の心理的葛藤がある場合の両方が含まれている可能性が考えられよう。また、項目 9「もっと子どもをきびしく叱ってほしい」と項目 10「子どもをかわいがってほしい」では「よくある」「ときどきある」と答えた人より「あまりない」「めったにない」と答えた人のほうが多く、全体の 2/3 前後を占めている。夫の子どもへの直接的な関わりを「これ以上望まない」人が多いかたちになっているが、この結果も、夫に満足している場合と、夫婦間の心理的葛藤がある場合、あるいは夫の子どもへの関わり方に対する葛藤がある場合などが混在している可能性も考えられるかもしれない。

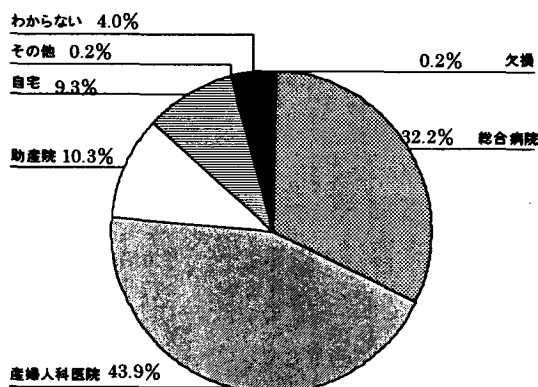
このように、祖父母との関係と夫との関係で回答傾向に違いが見られたが、これは、養育者にとって、祖父母との関係が持つ意味と、夫との関係が持つ意味が異なることを示しているのであろう。加えて、項目 1 から 5 では養育者が「困ったり悩んだりした体験」について尋ねているのに対して、項目 6 から 10 では相手に対する「より具体的な不満や要求の体験」について尋ねているために、前者と後者とでは、異なる視点での回答となっている面もあるかもしれない。

V回答者の子ども時代の生育状況について

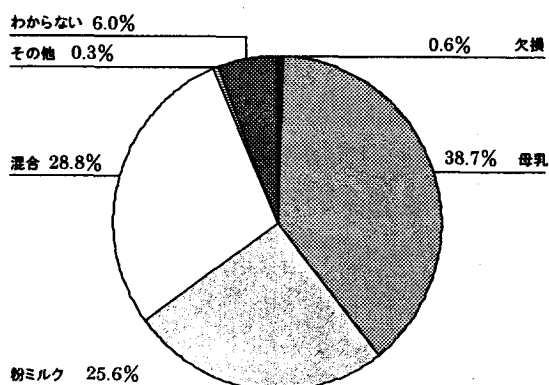
図V-1 親のきょうだいの数と出生順位



図V-2 親が生まれた施設



図V-3 親の乳児期の栄養



図V-1~11、表V-1に、本調査Vの各項目に対する回答の度数分布を示す。

回答者の同胞は、二人きょうだいが半数以上、次に三人きょうだいが多かった。回答者の生まれた施設は、産婦人科が44.0%、次いで総合病院が32.2%を占めた。飲んでいたものは、母乳が39%、混合が28.8%、粉ミルクが25.8%と、回答が分かれている。

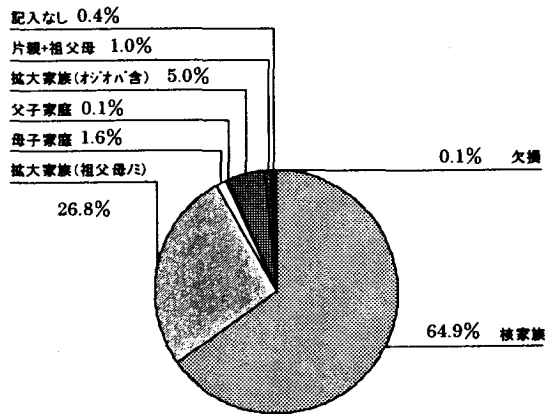
回答者が子どもの頃の家族構成は、核家族が54.4%、祖父母との同居が36.9%であった。本調査Iで得られた現在の家族構成は、約8割が核家族であったことから、親の世代と子どもの世代との差が伺える。主に世話をしてくれた人については、母が54.4%、父が37.0%と、両親が合わせて約9割を占めた。幼稚園に入園した人が72.3%、保育園が25.9%と、ほとんどの人がいずれかの経験を持っている。

回答者の育てられ方については、「どちらかといえばきびしい」が最も多く、次に「どちらかといえばあまい」が多かった。親に叩かれた経験は、「ときどきあった」が最も多いが、他の回答もそれぞれに得られている。体罰の必要性については、8割近くが「ときには必要」と答えている。出産以前に年少者の世話をした経験については、「ある」が約半数で、「ない」を僅かに上回っている。親と離れて暮らした経験を持っている人は、13.2%であった。

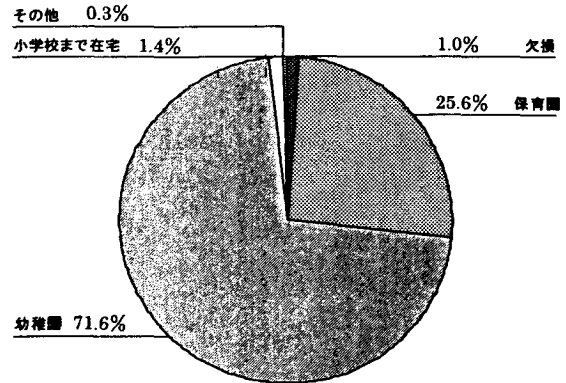
表V-1 母乳を何歳まで飲んだか

	年齢	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント	有効度数	309
有効	0歳	18	1.5%	5.8%	5.8%	欠損値	866
	1歳	209	17.8%	67.6%	73.5%	平均値	1.37
	2歳	56	4.8%	18.1%	91.6%	標準偏差	1.05
	3歳	17	1.4%	5.5%	97.1%	最小値	0
	4歳	6	0.5%	1.9%	99.0%	最大値	10
	6歳	1	0.1%	0.3%	99.4%		
	10歳	2	0.2%	0.6%	100.0%		
	合計	309	26.3%	100.0%			
欠損値	システム 欠損値	866	73.7%				
合計		1175	100.0%				

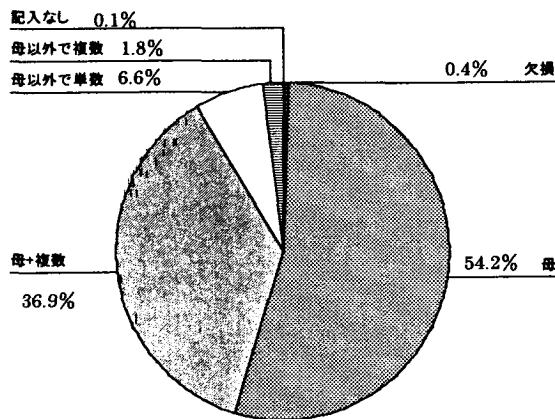
図V-4 親の子ども時代の家族構成



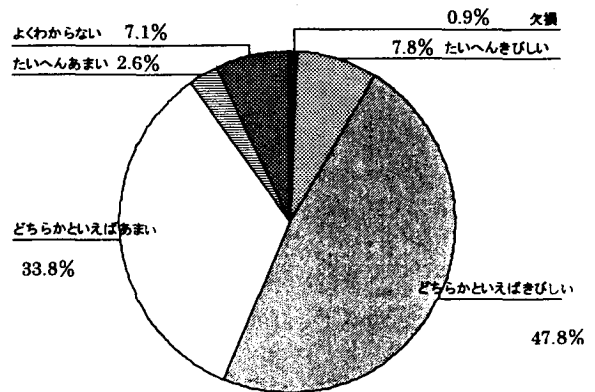
図V-6 親の子ども時代の保育状況



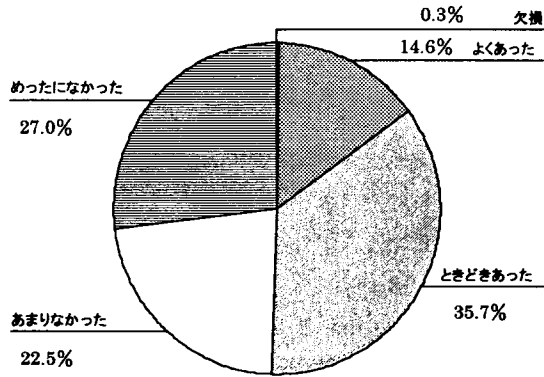
図V-5 親の子ども時代の主な養育者



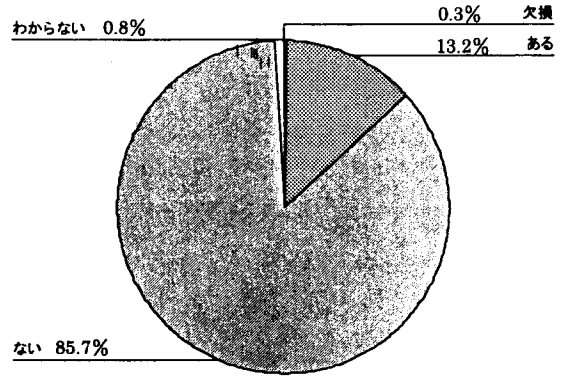
図V-7 親の子ども時代の育てられ方



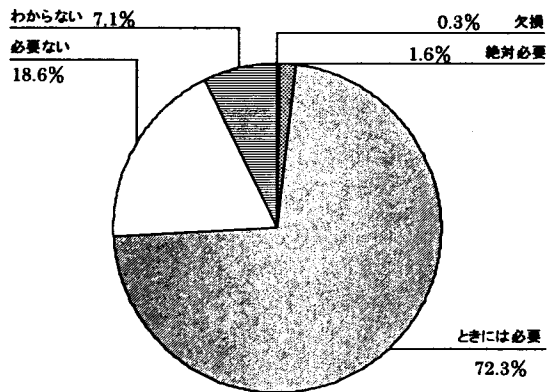
図V-8 親の子ども時代の叩かれた経験



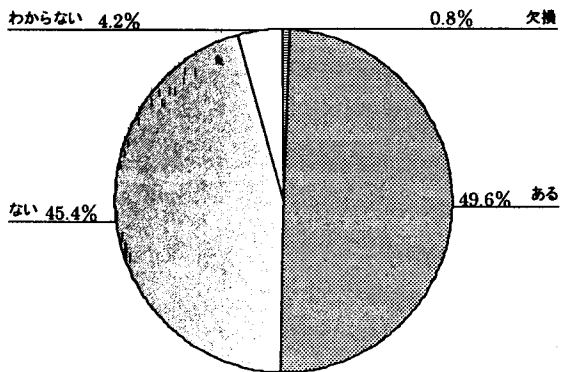
図V-11 親の子ども時代の親との離別経験



図V-9 しつけとして体罰は必要だと思うか



図V-10 年少者の世話経験



第2章 育児ストレスと母子をとりまく諸条件との関連

第2章では、「育児ストレス得点」と、母子の生活の状況や人間関係など、さまざまな条件との関連について統計的な分析を行った。「育児ストレス得点」は、本アンケートの第III部にある21項目の中から必要と思われる15項目を選択し、それらを合計した点数とした。直感的にわかりやすくするために、アンケートとは得点を逆にし、得点が高いほど、ストレスが高いと読めるようにした。

「育児ストレス得点」の項目の選択については次のようにした。まず第III部の全21項目で、因子分析(主成分分析)を行った。Kaiserの正規化を伴うバリマックス回転後の結果を表2-1に示す。

項目番号	項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
Ⅲ-11	子どもを叩きたいと思ったことがありますか	0.835	0.005	-0.067	0.005
Ⅲ-12	実際に子どもを叩いたことがありますか	0.748	-0.096	-0.058	-0.049
Ⅲ-10	子どもがだだをこねたり、我(が)が強いことで困ったり悩んだりしたことがありますか	0.626	0.313	0.035	0.106
Ⅲ-14	子どもが育てにくい子だと感じて悩んだことがありますか	0.578	0.413	-0.039	0.112
Ⅲ-6	子どもが泣いても世話をする気にならなかったことがありますか	0.537	0.272	-0.230	0.008
Ⅲ-15	子どもと相性が悪いのではないかと悩んだことがありますか	0.514	0.421	-0.121	0.054
Ⅲ-8	子どもの排泄のしつけについて困ったり、悩んだりしたことがありますか	0.495	0.307	-0.038	0.046
Ⅲ-7	子どもがいなければいいと思ったことがありますか	0.475	0.199	-0.423	-0.029
Ⅲ-9	子どもがよく寝ないことや夜泣きについて困ったり悩んだりしたことがありますか	0.411	0.398	-0.009	0.079
Ⅲ-18	近所に子育てについて話し合える人がいなくて困ったことがありますか	0.051	0.746	-0.117	-0.199
Ⅲ-17	近所に子どもを遊ばせるところがなくて困ったことがありますか	0.007	0.648	0.021	-0.002
Ⅲ-19	近所の人に子どもを比べられて悩んだりしたことがありますか	0.197	0.603	-0.060	0.037
Ⅲ-16	子どもがよく病気やけがをするので困ったり悩んだりしたことがありますか	0.115	0.548	-0.076	-0.036
Ⅲ-5	子どもを育てることに張り詰めた緊張を感じたことがありますか	0.313	0.452	0.038	0.011
Ⅲ-13	子どものことばの発達について気になったことがありますか	0.216	0.374	-0.106	0.097
Ⅲ-3	はじめて子どもを抱いた時どんな気持ちになりましたか	-0.005	-0.041	0.776	-0.024
Ⅲ-4	はじめて子どもを近所の人や知人に見せた時どんな気持ちになりましたか	0.013	-0.085	0.730	0.063
Ⅲ-1	本児の妊娠がわかったときどう思いましたか	-0.071	-0.033	0.632	0.075
Ⅲ-2	赤ちゃんの性別に対してどのような気持ちを持ちましたか	-0.134	-0.016	0.539	-0.060
Ⅲ-20	子育てについて友人と話したりすることがありますか	0.040	-0.105	0.015	0.894
Ⅲ-21	子育てについて友人に話してほっとしたことがありますか	0.067	0.068	0.041	0.884

質問の問い方で因子が分かれたとも言えるような結果で、項目番号5~19の「子育てについて困ったり悩んだりした体験」を問う項目が第1因子と第2因子の2つの因子に分かれたほかは、1~4の「出産後の感情」を問う項目が第3因子、20・21の「子育てに関する友人のサポートの存在」を問う因子が第4因子に分かれている。ここで、第1因子と第2因子の内容を検討すると、第1因子は、子育てへのコミットのしにくさ、やりにくさ、う

まくいかなさ、といった、「子育てに対するフラストレーション」の因子、第2因子は「子育て環境や育て方そのものについての不安」の因子といえそうである。つまり、前者はどちらかという、子育てに対するネガティブな感情が反映された因子、後者はいくぶん「もっとよくできたら、うまくできたら」といったポジティブな側面もふくまれた因子といえよう。ただし、第1因子の中の項目14「育てにくい子と感じて悩んだ」、15「子どもと相性が悪いのではと悩んだ」、9「子どもが寝ないことや夜泣きで困った」といった項目は、第2因子の負荷も高く、これらは2つの因子の両面が含まれていると考えられる。これらは、第3因子にみられる項目1～4の「出産後の感情」に関する4項目や、第4因子にみられる項目20・21の「子育てに関する友人のサポートの存在」に関する2項目とは、区別され、実質上、この質問紙の主要成分と見ることができよう。

以上の観点から、今回は、こういった、いわば子育てに対するポジティブ・ネガティブ両面をあわせもったストレス感情を拾うことをまずは主眼とし、5～19の項目の評定値の1～4を入れ替えた値の合計得点を「育児ストレス得点」とした。この「育児ストレス得点」の α 係数を算出したところ0.841であったので、十分信頼性は高いと考えられる。

なお、回答の一部には高い年齢の子どもについてのものも含まれていたが、調査の趣旨に従い、以下の処理は7歳以上の子どもを除いた母集団に対して行なった。以下に、各条件と、「育児ストレス得点」の関連を示す。条件ごとに、「育児ストレス得点」の平均値を比較している。

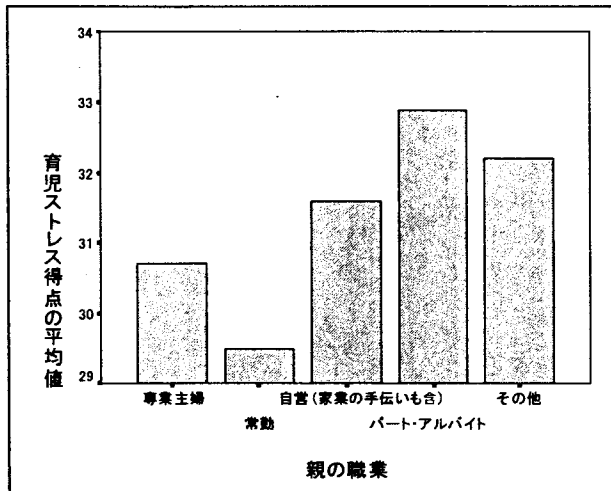


図1 親の職業による育児ストレス

図1に、回答者の職業による育児ストレス得点の平均値を示した。平均値はそれぞれ、専業主婦 30.70、常勤 29.48、自営 31.60、パート・アルバイト 32.89、その他 32.20であった。

職業によって育児ストレス得点の平均値に有意な差があるかどうかについて、一元配置分散分析を行ったところ、有意な差($p<.001$)が見られた。多重比較(Tukey法)の結果、専業主婦とパート・アルバイト、および常勤とパート・アルバイトの間に、有意な差($p<.05$)が見られ、パート・アルバイトをしている回答者の方が、育児ストレスが若干高いことが示された。

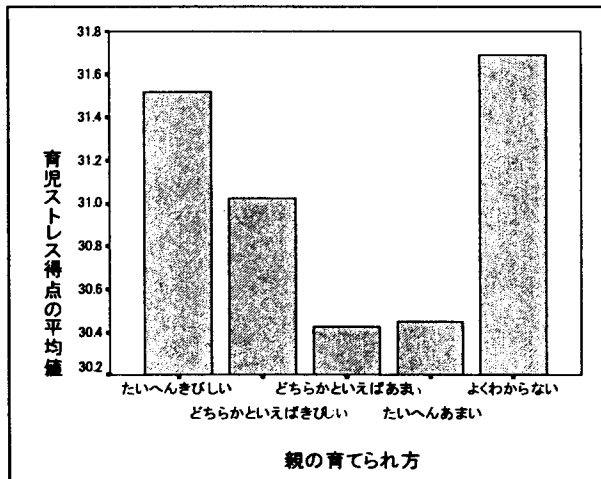


図2 親の育てられ方による育児ストレス

図2に、回答者の育てられ方による、育児ストレス得点の平均点を示した(たいへんきびしい 31.52、どちらかといえばきびしい 31.02、どちらかといえばあまい 30.43、たいへんあまい 30.45、よくわからない 31.70)。育てられ方によって育児ストレス得点の平均値に差があるかどうかについて、一元配置分散分析を行ったところ、有意な差は見られなかった。

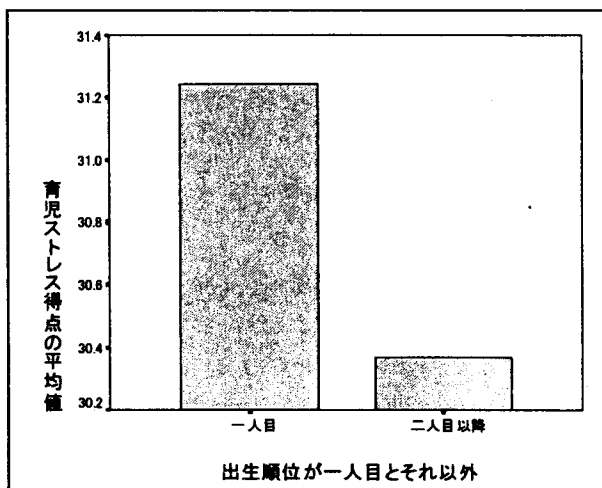


図3 子の出生順位と育児ストレス

図3に、子どもが一人目かそれ以外かによる、育児ストレス得点の平均点を示した(一人目 31.24、二人目以降 30.37)。一人目かそれ以外かによって育児ストレス得点の平均値に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意な差は見られなかった。

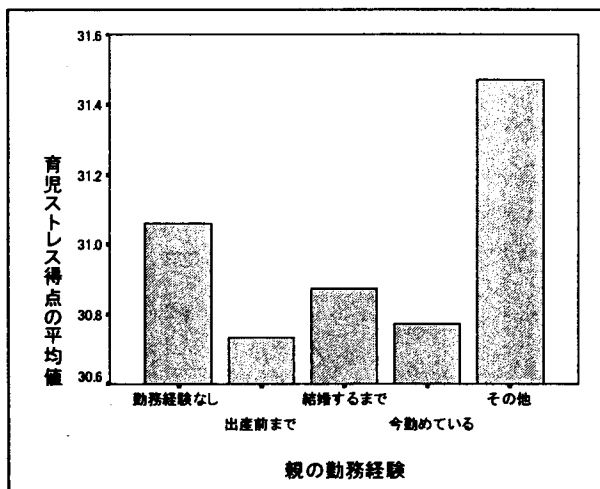


図4 親の勤務経験と育児ストレス

図4に、回答者の勤務経験による、育児ストレス得点の平均点を示した（勤務経験なし 31.06、出産前まで 30.73、結婚するまで 30.88、今勤めている 30.77、その他 31.47）。勤務経験によって育児ストレス得点の平均点に差があるかどうかについて、一元配置分散分析を行ったところ、有意な差は見られなかった。

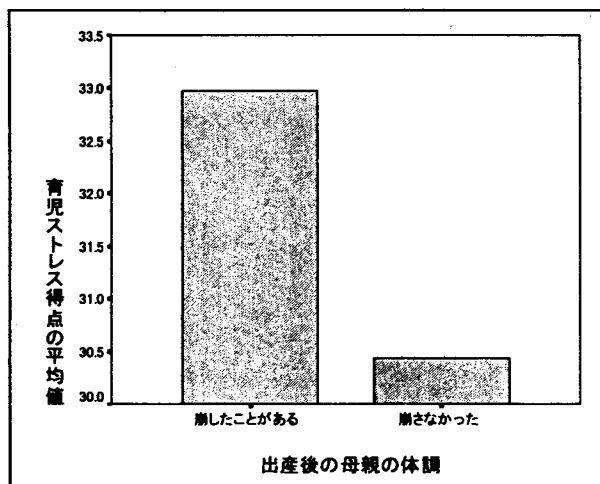


図5 出産後の母親の体調と育児ストレス

図5に、出産後体調をくずしたかどうかによる、育児ストレス得点の平均点を示した（崩したことがある 32.97、崩さなかった 30.44）。体調によって育児ストレス得点の平均点に差があるかどうかについて、一元配置分散分析を行ったところ、有意な差($p < .001$)が見られ、体調を崩したことがある回答者の方が、育児ストレス得点が高いことが示された。

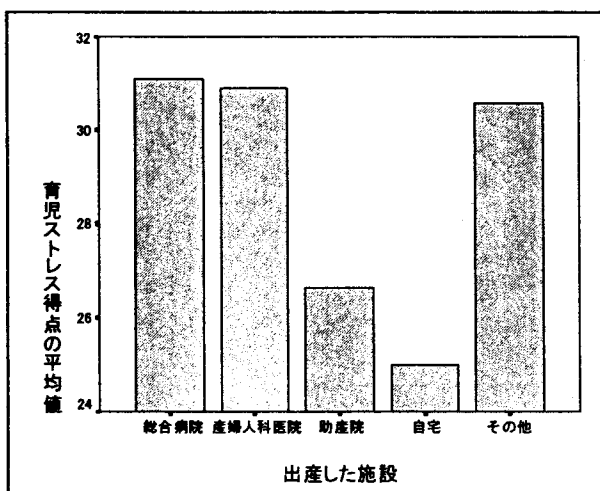


図6 出産した施設と育児ストレス

図6に、出産した施設による、育児ストレス得点の平均点を示した（総合病院 31.10、産婦人科医院 30.91、助産院 26.63、自宅 25.00、その他 30.57）。施設の違いによって、育児ストレス得点の平均点に差があるかどうかについて、一元配置分散分析を行ったところ、有意な差($p < .05$)が見られた。多重比較(Tukey法)の結果、総合病院と助産院、および産婦人科医院と助産院に有意な差(いずれも $p < .05$)が見られ、助産院を利用した回答者の方が、育児ストレス得点が高いことが示された。出産が自宅であったという回答者は3人ときわめて少なかったため、平均値が見かけ上低くなっている。今後データ収集を重ねた上での比較が必要だと考えられる。

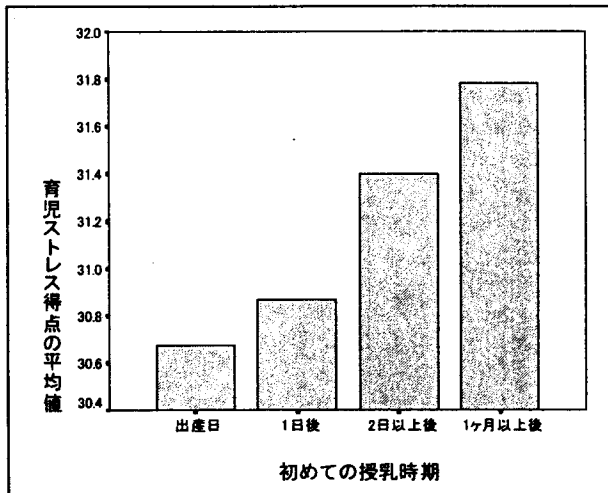


図7 初めての授乳時期と育児ストレス

図7に、初めて授乳した時期による、育児ストレス得点の平均点を示した（出産日 30.68、1 日後 30.87、2 日以上後 31.40、1 ヶ月以上後 31.78）。授乳の時期によって、育児ストレス得点の平均点に差があるかどうかについて、一元配置分散分析を行ったが、有意な差は見られなかった。

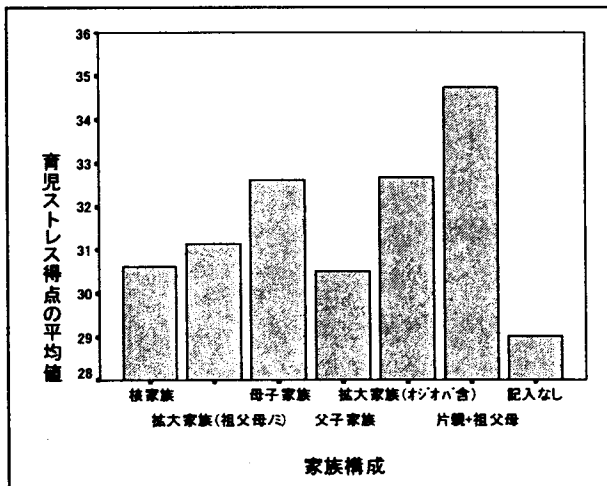


図8 現在同居している家族構成と育児ストレス

図8に、現在同居している人の構成による、育児ストレス得点の平均点を示した（核家族 30.62、核大家族(祖父母のみ) 31.15、母子家族 32.60、父子家族 30.50、それ以外の大家族 32.66、片親+祖父母 34.74、記入なし 29.00）。同居している家族構成によって、育児ストレス得点の平均点に差があるかどうかについて、一元配置分散分析を行ったが、有意な差は見られなかった。

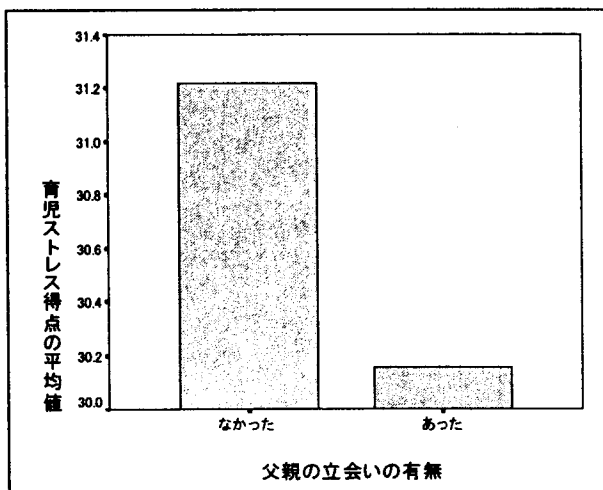


図9 出産時の父親の立会いと育児ストレス

図9に、出産時に父親が立ち会ったかどうかによる、育児ストレス得点の平均点を示した（なかった 31.22、あった 30.16）。立ち会いの有無によって、育児ストレス得点の平均点に差があるかどうかについて、一元配置分散分析を行ったところ、有意な差 ($p < 0.05$)が見られ、立会いがあったという回答者の方が育児ストレス得点が低いことが示された。

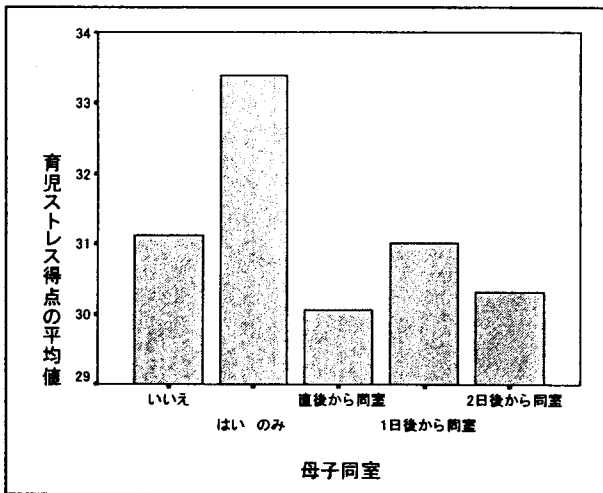


図 10 出産後の母子同室と育児ストレス

図 10 に、出産後母子同室であったかどうかによる、による、育児ストレス得点の平均点を示した（いいえ 31.13、はい 33.39、直後から同室 30.05、1 日後から同室 31.02、2 日後から同室 30.31）。母子同室かどうかによって、育児ストレス得点の平均点に差があるかどうか、一元配置分散分析を行ったが、有意な差は見られなかった。

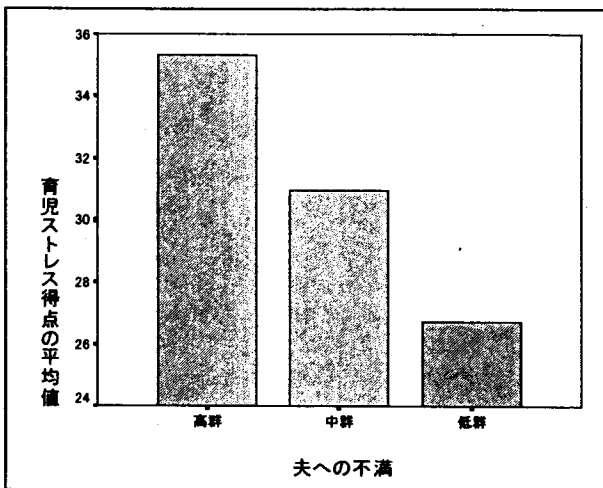


図 11 夫への不満と育児ストレス

回答者を、夫への不満に関わる質問 (IV-6~10) に対する評定値の合計点によって、高群、中群、低群に分けた。図 11 に、それぞれの群による、育児ストレス得点の平均点を示した（高群 35.30、中群 30.98、低群 26.75）。群によって育児ストレス得点の平均点に差があるかどうかについて、一元配置分散分析を行ったところ、有意な差($p < .001$)が見られた。多重比較(Tukey 法)の結果、高群、中群、低群いずれの間にも、有意な差が見られ、夫への不満が高いほど、育児ストレスが高いことが示された。

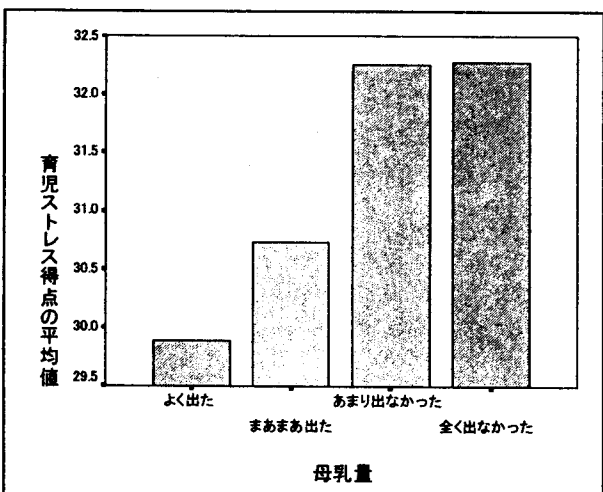


図 12 出産後の母乳の量と育児ストレス

図 12 に、出産後の母乳の量による、育児ストレス得点の平均点を示した（よく出た 29.89、まあまあ出た 30.72、あまり出なかった 32.25、全く出なかった 32.27）。母乳の量によって育児ストレス得点の平均点に差があるかどうかについて、一元配置分散分析を行ったところ、有意な差($p < .001$)が見られた。多重比較(Tukey 法)の結果、よく出たという回答者と、あまり出なかったという回答者の間に、有意な差($p < .001$)が見られ、母乳があまりでなかったという回答者の方が、育児ストレス得点が高いことが示された。

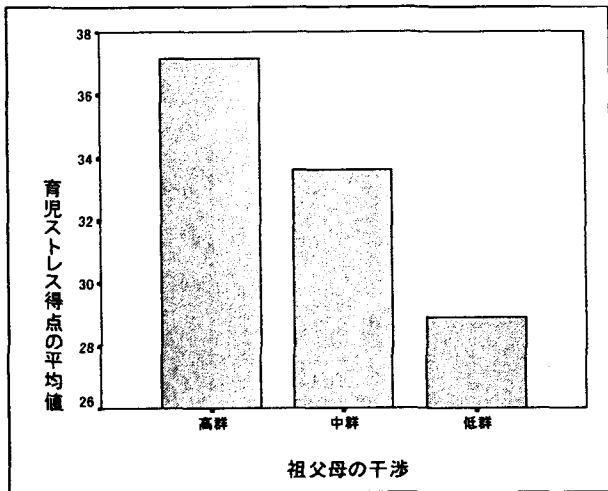


図 13 祖父母の干渉と育児ストレス

回答者を、祖父母の育児へのかかわりに関する質問 (IV-1~4) に対する評定値の合計点によって、高群、中群、低群に分けた。図 13 に、それぞれの群による、育児ストレス得点の平均点を示した (高群 37.14、中群 33.62、低群 28.88)。群によって育児ストレス得点の平均点に差があるかどうかについて、一元配置分散分析を行ったところ、有意な差 ($p<.001$) が見られた。多重比較 (Tukey 法) の結果、高群、中群、低群いずれの間にも、有意な差が見られ、祖父母の育児への干渉に対する不満が高いほど、育児ストレスが高いことが示された。

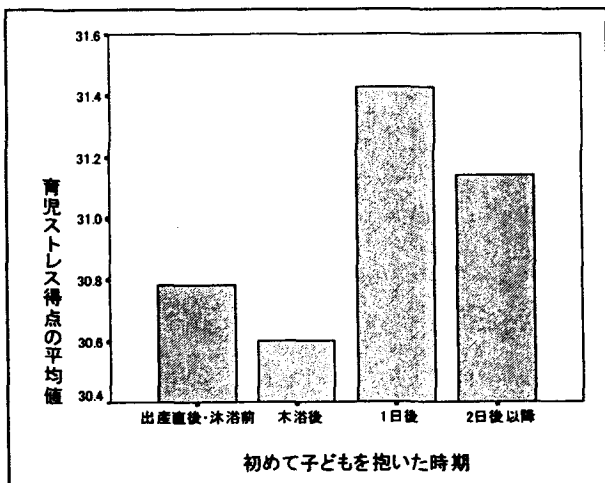


図 14 初めて子どもを抱いた時期と育児ストレス

図 14 に、はじめて子どもを抱いた時期による、育児ストレス得点の平均点を示した (出産直後・沐浴前 30.78、沐浴後 30.60、1 日後 31.43、2 日後以降 31.14)。子どもを抱いた時期によって育児ストレス得点の平均点に差があるか、一元配置分散分析を行ったが、有意な差は見られなかった。

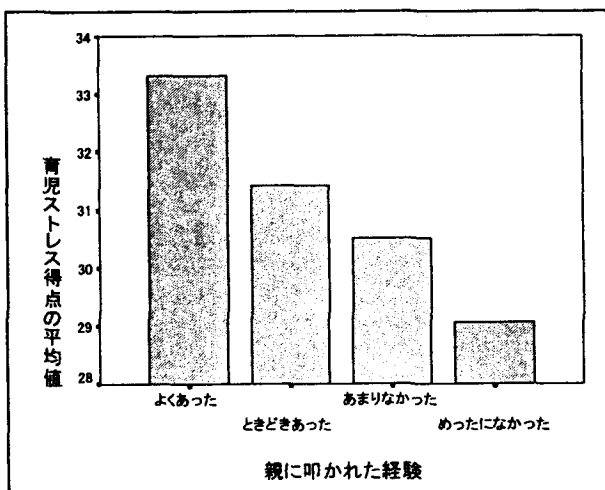


図 15 親に叩かれた経験と育児ストレス

図 15 に、子どものころ、親に叩かれた経験による、育児ストレス得点の平均点を示した (よくあった 33.31、ときどきあった 31.41、あまりなかった 30.51、めったになかった 29.05)。叩かれた経験によって育児ストレス得点の平均点に差があるかどうかについて、一元配置分散分析を行ったところ、有意な差 ($p<.001$) が見られた。多重比較 (Tukey 法) の結果、「よくあった」群と「ときどきあった」「あまりなかった」「めったになかった」群、および「ときどきあった」群と「めったになかった」群との間に、有意な差が見られ、叩かれた経験が多いほど、育児ストレス得点が高いことが示された。

第3章 自由記述の分析

自由記述欄では、「お差し支えなければ、日頃子育てについて感じたり考えたりされていることを自由にご記入ください」という記載に対して、お答え頂いた記述についてまとめた。中には、裏面までびっしりと記入されている方もあり、それぞれに子育てをする中で感じる様々な想いが表現されていた。すべての記述について、数人で読み合わせを行った上、「子育ての中で感じるストレス」に焦点を当てて、分類を行った。

各分類項目ごとに、表1, 2は総回答数及びストレスの有無について、またその内容についての詳しい分類を表3, 4に挙げ、また、代表的な内容と思われる記述を例に挙げた。

1. 自由記述記入率

有効回収数の6割近くに当たる676人に記入があった。(表1)

表1<自由記述記入率>

アンケート回答数	1 1 7 5
自由記述記入数	6 7 6 (57.5%)

2. 育児ストレスの有無

まず、子育てに対して何らかの悩みや不満など、ストレスに関わる内容の記述があるものを「育児ストレス有」とし、そのような記述が全くなく、可愛い・充実しているなどの肯定的な記述のみであるものを「ストレス無」とした。(表2-1) なお、内容がいくつかの分類に重複する場合は、いずれか一つを選択するのではなく、すべてを抽出した。そのため、のべ内容数が記述数を上回っている。(表2-2)

表2-1<育児ストレスの有無(対人数)>

ストレス有	5 7 5 人 (85.0%)
ストレス無	1 0 1 人 (15.0%)
合計	6 7 6 人 (100.0%)

表2-2<育児ストレスの有無(対のべ内容数)>

ストレス有	7 4 6 人 (88.1%)
ストレス無	1 0 1 人 (11.9%)
合計	8 4 7 人 (100.0%)

3. 育児ストレスの分類

育児ストレスの分類では、「ストレス無」「ストレス有」共に、できるだけ文面の言葉を大切に分類を行った。

「育児ストレス無」(表3-1)群では、「生活が楽しく、充実している」という内容の文面が最も多かった。

表3-1<育児ストレス無>

生活が楽しい、安定している	3 5
周囲の協力があって助かっている	2 3
子どもが可愛い、発見があつてうれしい	1 9
その他	2 4
合計	1 0 1

「育児ストレス有」(表3-2)群では、「不安がある」「反省している」の項目は、それぞれ不安、反省という言葉が明記してあるもの、あるいは非常にその意味あいの強いものを分類した。

「努力している」項目には、悩んでいるという記述ではないものの、子供への接し方などについて、意識的な「努力」を感じるものを、育児ストレスに含まれると考え、分類した。

また、「不満がある」項目は、何らかの要求を含むものを分類し、「批判」項目には、他者などへの批判を記述してあるものを分類した。「悩みがある」項目は、具体的に悩みを書いたものから、自分自身についてや、子供についての抽象的な記述まで、ストレスを感じていると読み取れたものを分類した。

4. 「育児ストレス有」の分類

「育児ストレス有」の分類について、それぞれの項目を、さらにその内容について分類を行った。

4-1 「悩みがある」(表4-1)

「悩みがある」項目は、現在では解決しているが、過去に悩んだことがあるという記述を1項目とした。その中では、母子だけで密室状態になったり、余裕がなくなってしまったことで悩んだ人が最も多かった。また、1人目の育児の時に分からないことばかりだった、緊張していたなどのストレスを感じたという記述も多く見られた。

現在悩みがある中では、今の子育てでいいのか分からないという、自分の子育てへの迷いや、否定感、あるいは親としての自分自身の自信のなさを記述したものが最も多く、また、子供を叩いてしまうなどの深刻な内容のものもあった。

表3-2<育児ストレス有>

1. 悩みがある	330
2. 不満がある	185
3. 不安がある	72
4. 努力している	48
5. 批判	39
6. 反省している	37
7. その他	35
合計	746

表4-1<悩みがある>

過去にあった		62
母子密室で余裕なくなった	28	
1人目の育児に	22	
その他	12	
現在ある		268
今の子育てでいいのか分からない(1)	65	
子どもの発達、成長について	51	
母子密室で余裕がもてない	47	
仕事と育児の両立について	35	
家族との関係について(2)	21	
他の母親との関係について	18	
その他	8	
合計	23	330

(1)具体的な状況の記述がなく、子育て全般について分からない、自信が持てないなどの記述のあるもの

(2)家族には夫、両親、義理の両親を含む

4-2 「不満がある」(表 4-2)

「不満がある」項目では、行政や社会に対して、子育て支援を望むもの、また、社会や職場に対して子育てへの理解を求めるものが最も多かった。

また、「預けられる施設、遊べる場所に対して」では、公園整備の充実、保育所の充実(入所児童の増加、病児保育、延長保育)を求めるものが多く、働いていなくても子供を預かってくれるシステムを望む記述も数多く見られた。

「夫」には、しつけをして欲しい、子供に関わってほしいなど、育児への参加を求める記述がほとんどだった。

表 4-2<不満がある>

行政、社会、職場に対して	72
預けられる施設、遊べる場所に対して	62
夫に対して	30
両親、義理の両親に対して	5
その他	16
合計	185

4-3 「不安がある」(表 4-3)

「不安がある」項目では、多発する少年犯罪を挙げて、子供や社会全体の将来を不安視する記述が最も多かった。また、子供に対する接し方について、自分の接し方が子供にどのような影響を与えるのか不安だなどの記述が見られた。

表 4-3<不安がある>

過去にあった		5
子どもへの接し方に関して	3	
その他	2	
現在ある		67
子ども、社会の将来に対して	35	
子どもへの接し方に関して	17	
その他	15	
合計		72

4-4 「努力している」(表 4-4)

「努力している」項目では、子供への接し方に関わるものがほとんどで、話を聞くようにする、抱きしめるなど、普段の関わりに関するものと、たたかないようにするなどの、叱り方に関するものに分けられた。

表 4-4<努力している>

子どもへの接し方		42
普段の関わり方	33	
叱り方(体罰など含)	9	
夫と心がけていることがある		4
その他		2
合計		48

4-5 「批判」(表 4-5)

「批判」の項目では、他の親子に対するものが最も多く、子供を叱らない親が多い、子供の態度が悪いなどの記述があった。

表 4-5<批判>

他の親子に対して	30
マスコミに対して	8
早期教育に関して	3
その他	3
合計	39

4-6 「反省している」(表 4-6)

「反省している」項目では、子供への接し方に
関わるものがほとんどを占め、いらいらして子供
にあたってしまうこと、余裕がなくなり怒ってし
まうこと、たたいてしまうことなどに対して反省
する記述があった。

表 4-6<反省している>

子どもへの接し方		35
普通の関わり方	29	
叱り方(体罰など含)	6	
その他		2
合計		37

5. 事例

<ストレス無>

毎日がバタバタしている様な? でもいろいろ発見があったりと楽しい。自分も子どもに育て
られていると思います。時には叱ったりもするが、やはり子どもは何よりもかわいいもんだな
あと感じている。
(母・27才、子供・2才5ヶ月、女)

<悩みがある>

子供が言うことを聞かずイライラすることがよくある。返事をしない、片付けない、さっさ
とできないなど、冷静に考えるとささいな事が多い。いつもいつもなので、しまいには私がキ
レてしまい、手を出すこともある。自己嫌悪におちいる。(母・34才、子供・6才0ヶ月、女)

どこまでがしつけとして厳しくするのがよいのか、加減がむつかしいと思う。自分は流れの
中で厳しくしたり、優しくしたりしているつもりでも、他人に厳しい所だけを見ていけないと
言われ、優しい所だけ見て甘いと言われ、じゃあどうしたらいいの?って心の中でいつもつぶ
やく毎日です。
(母・35才、子供・1才9ヶ月、女)

<不満がある>

第一子出産時よりは保育状況が良くなっていると思　うが、もう一層の努力が必要と思
う。(公立保育所の延長保育時間をせめて7時までにする。今は一部の保育所のみ。病時保育
してくれる所を増やしてほしい)
(母・29才、子供・6才1ヶ月、男)

<不安がある>

未成年者の事件が多くなっているの、自分の子が　大きくなってどうなるのかがとて
も不安。
(母・30才、子供・5才9ヶ月、男)

<努力している>

私は、子育てする事で、人に迷惑をかけたり、危険　な事をしている時には、厳しくしつ
けをすることが大切だと思いますが、あまり子供のする事にあまり過干渉になりすぎないよう
にしています。
(母・26才、子供・5才3ヶ月、女)

<批判>

公園や集団の中で自分の子が悪い事（人に迷惑）な としても、叱らない親が多いと感じ
じます。 (母・36才、子供・5才1ヶ月、女)

<反省している>

自分の思い通りにしてくれないと不満を感じ、どう すれば言うことを聞いてくれるの
かと「こんな子になってほしい」と本人の個性や主張を無視して子育てをしていた時期があり、
今はまちがいに気付き、気をつけていますが、子供は私の顔色をみるくせがついてしまったよ
うでとても反省しています。 (母・29才、子供・5才3ヶ月、男)

6. まとめ

分類の結果、「悩みがある」「不安がある」「努力している」「反省している」の項目の中
で、「子供への接し方」について記述した内容が144あり、お母さんたちが子供に対して、
どのような言葉をかけるか、どんな態度をとればいいのか、どうやって向き合ったらいいの
か、非常にストレスを抱えていることが感じられた。

また、「母子密室になり、余裕がなくなる」という内容の記述が、過去・現在合わせて
63あり、その結果、子供を怒ってしまう、子供にあたってしまうという記述も多く、子育
てを一人で抱えることで、お母さんたちに精神的疲労が大きくなり、その鋒先が子供に向
かうことがうかがわれた。

「不満がある」項目は、施設や社会に対するものが134にのぼり、お母さんたちが子育
てへの理解や支援を強く望んでいることが分かる。その中では、仕事を持つお母さんたち
は、保育の充実と母親の就労への理解を求め、仕事を持たないお母さんたちは、母親だけ
が育児を負担することへの不満と、一時的に子供を預かってくれるシステムを求めている。
他の分類項目と合わせて不満を記述していた人が多く、悩みや不安を母親一人のものとし
るのではなく、夫や家族と共有し、社会全体で子育てを考えたいという姿勢が感じられた。

記述全体を見た場合、対人数では、「ストレス有」は「ストレス無」の5倍を越え、対内
容数では、「ストレス有」が「ストレス無」の7倍の数に上る。記述の内容も、「ストレス
無」群が、楽しい、かわいいなど、自分の気持ちを非常に率直に表現しているのに対し、「ス
トレス有」群は、自分の子育てそのもの、親としての自分自身について、漠然とした否定
感を持っていることが感じられた。自由記述の分類では、数、内容共に、お母さんたちが
抱えるストレスの大きさ、深さを示す結果となった。

おわりに

本調査は、今日の子育て環境と、保護者（主に母親）の子育てに関する悩み等を把握し、育児をどのように支援していけるかを考えるための資料を得ることを目的としました。

その中でも、今回の報告では、Ⅲの「回答者の育児に対する気持ちや子育ての状況」とⅣの「育児をめぐる回答者の家族への思い」から、育児ストレスに関係する項目を抽出して育児ストレス度を測り、それと母子をとりまく育児の諸条件との関連をみる試みを行いました。また予想外に多かった、自由記述欄への熱心な記述に対して、回答者が育児のなかで感じるストレスに焦点を当てた分類と類型化を行ってみました。

それらの結果、出産に関しては、出産した施設と夫の立会いの有無に、ストレスとの関連が見られました。このことから、育児のスタートとなる出産をどのように体験したかが、その後の育児にも影響すると考えられます。また、出産後の母親の体調や母乳の出方にも、ストレスとの関連が見られました。出産後、心身の不調や問題があると、その後の育児もどこかつらいものになってしまうのかもしれない。

母親を取り巻く人間関係に関しては、夫との関係や（子どもの）祖父母との関係に、また母親自身が親に叩かれた経験の有無に、ストレスとの関連が見られました。育児というと、母親と子どもの関係だけを考えがちですが、周囲との人間関係などにおいて、お母さん自身が支えられることが、非常に大切なのではないかと思います。

また、自由記述からは、子どもに対してどのような言葉をかけるか、どんな態度をとればいいのか、どうやって向き合ったらいいのかなどの、子どもへの接し方や、今の育児支援の現状や社会の認識への不満などが、ストレスになっていることが示されました。

このような結果をもとに、今後も考察を深め、よりストレスの少ない子育てへ、虐待など悲しい事故や事件が起こらないよう、社会における育児支援の研究を続けていきたいと思っております。

今後とも、御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

甲南大学学術フロンティア子育て研究会代表
甲南大学文学部人間科学科教授 松尾 恒子

子育て環境と子どもに対する意識調査 (無記名)

調査のお願い

こんな調査です

2000年がいよいよ始まりました。皆様方にはお元気でお過ごしでしょうか。さて、甲南大学では、このたび文部省学術フロンティア共同研究プロジェクトの一環として子育て研究会をもち、子どもの育児環境について調査することになりました。今日の子どもたちとお母さんやご家族の方の置かれている環境や育児に対する考えを知り、育児をどのように支援していけるのかを考えるための資料として生かしたいと思っています。

ご多忙中のこととは存じますが、よろしくご協力くださいますようお願いいたします。

文部省学術フロンティア共同研究プロジェクト……………

このプロジェクトは現代人のメンタリティを研究対象とし、特にその危機の側面に焦点をあて、臨床心理学および現代思想の立場から総合的な研究を行なうものです。

子育て研究会……………

甲南大学カウンセリングセンターの教員およびカウンセラーで構成される研究会です。

お子さんが複数いる方は

原則的に、今日お連れになったお子さんについてお答えください。ほかのお子さんについても御回答くださる場合は、ひとりにつき1部の用紙をご使用ください。回答が重複する箇所もあるかと思いますが、省略せずに記入してください。ご面倒ですが、どうかご協力くださいますようお願いいたします。

研究以外の目的には使用しません

この調査に記入されました事柄は、すべて統計的に処理し、研究以外の目的に使用することはありません。また、無記名ですので、お宅やお宅のお子さんにご迷惑をおかけすることは一切ありません。どうぞありのままをお答えください。

また、調査の結果をお知りになりたい方は下記までご連絡ください。調査結果がまとまり次第、お送りいたします。

研究者代表

甲南大学文学部人間科学科教授 松尾 恒子

この調査についてのお問い合わせは、下記にご連絡ください。

甲南大学文学部人間科学科（〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1）

松尾研究室

TEL. 078-435-2372

文学部心理共同研究室

TEL FAX.078-435-2682

これからおたずねすることについて
あてはまる選択肢に○をつけてください。

() 及び _____ には、具体的に記入してください.....

あなたの年齢 _____ 歳

お子さんとの続柄 ①母 ②父 ③祖母 ④その他 ()

あなたの職業 ①専業主婦 ②常勤 ③自営 (家業の手伝いも含む)
④パートまたはアルバイト (非常勤、嘱託も含む)
⑤その他 ()

現在同居している人についてその構成を書いてください。(例 お子さん・父・母・姉・祖母)

(お子さん・)

I. お子さんに ついて伺います.....

1. 出生順位, 性別, 年齢について きょうだい () 人中、() 人目。

性別 ()、現在の年齢は _____ 歳 _____ ヶ月

2. 妊娠中や出生時に何か問題はありましたか

①なかった

②あった



その内容をお答えください ()

3. 出生時のお子さんの数 ①ひとり ②双子 ③3人以上 () 人

4. 出生時の体重 体重 _____ ㎏

5. 出産の時期をお答えください ①満期産 ②過期産 (週) ③早産 (週)

6. 出産したのはどのような施設でしたか

①総合病院

②産婦人科医院

③助産院

④自宅

⑤その他 ()

7. 出産の形態は

①普通分娩

②無痛分娩

③吸引、鉗子(かんし)分娩

④帝王切開

⑤その他()

8. 出産時に父親の立会いはありましたか ①なかった ②あった

9. 立ち会いの有無を決めるときに大きく働いたのはどんな点ですか（複数回答可）

- ①病院の方針 ②母親の希望 ③父親の希望 ④その他（ ）

10. 生まれてすぐ泣きましたか ①泣いた ②時間がかかった ③わからない

11. 出産後は、母子同室でしたか

- ①はい ②いいえ



- ①直後から ②1日後から ③2日以上後から

Ⅱ. 出産前後のお母さんのことについて伺います

.....

1. お勤めされたことはありますか

- ①はい ②いいえ



- ①出産前まで ②結婚するまで ③今も勤めている ④その他（ ）

2. はじめて子どもを抱いたのはいつでしたか

- ①出産直後や沐浴前 ②沐浴後 ③1日後 ④2日以上後

3. はじめてオッパイをふくませたのはいつでしたか

- ①出産日 ②1日後 ③2日以上後 ④1ヶ月以上後

4. 出産後、母乳はでましたか

- ①よくでた ②まあまあでた ③あまりでなかった ④まったくでなかった

5. 出産後、体調をくずされたりされましたか

- ①はい ②いいえ



- その内容をお答えください（ ）

Ⅲ. あなたの気持ちや状況にいちばん近いものはどれですか

.....

1. 本児の妊娠がわかったときどう思いましたか

- ①たいへんうれしい ②まあまあうれしい ③あまりうれしくない ④ぜんぜんうれしくない

2. 赤ちゃんの性別に対してどのような気持ちを持ちましたか

- ①たいへんうれしい ②まあまあうれしい ③あまりうれしくない ④ぜんぜんうれしくない

3. はじめて子どもを抱いた時どんな気持ちになりましたか

- ①たいへんうれしい ②まあまあうれしい ③あまりうれしくない ④ぜんぜんうれしくない

- | | | | | |
|--|---------------|---------------|----------------|-----------------|
| 4. はじめて子どもを近所のひとや知人に見せたとき
どんな気持ちになりましたか | ①たいへん
うれしい | ②まあまあ
うれしい | ③あまり
うれしくない | ④ぜんぜん
うれしくない |
| 5. 子どもを育てることに張り詰めた緊張を感じた
ことがありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 6. 子どもが泣いても世話をする気にならなかった
ことがありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 7. 子どもがいなければいいと思ったことが
ありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 8. 子どもの排泄のしつけについて困ったり、
悩んだりしたことがありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 9. 子どもがよく寝ないことや夜泣きについて
困ったり悩んだりしたことがありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 10. 子どもがだだをこねたり、我(か)が強いことで
困ったり悩んだりしたことがありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 11. 子どもを叩きたいと思ったことがありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 12. 実際に子どもを叩いたことがありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 13. 子どものことばの発達について気になったことが
ありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 14. 子どもが育てにくい子だと感じて悩んだことが
ありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 15. 子どもと相性が悪いのではないかと悩んだことが
ありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 16. 子どもがよく病気やけがをするので困ったり
悩んだりしたことがありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 17. 近所に子どもを遊ばせるところがなくて
困ったことがありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 18. 近所に子育てについて話し合える人がいなくて
困ったことがありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 19. 近所の人に子どもを比べられて悩んだり
したことがありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 20. 子育てについて友人と話したりする
ことがありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 21. 子育てについて友人に話してほっとしたことが
ありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |

IV.ご家族のこと について伺います

- | | | | | |
|---|-------|---------|--------|---------|
| 1 祖父母に子どもの発育状態に関していろいろ
言われ困ったことがありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 2 祖父母と子どものしつけの方針が合わなくて
困ったことがありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 3 祖父母に妊娠を喜ばれていないように感じて
悩んだことがありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 4 祖父母に子どもをとられるように感じて
悩んだことがありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 5 子どもの具合が悪いとき手助けしてもらえる人が
いなくて困ったことがありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 6 夫にもっと早く帰宅してほしいと思ったことが
ありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 7 夫にもっと子どもの世話をしてほしいと
思ったことがありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 8 夫にもっと子どものことで話し相手になって
ほしいと思ったことがありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 9 夫にもっと子どもをきびしく叱ってほしいと
思ったことがありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |
| 10 夫にもっと子どもをかわいがってほしいと
思ったことがありますか | ①よくある | ②ときどきある | ③あまりない | ④めったにない |

V.あなたご自身に ついておたずねします

1. あなたはごきょうだいの中で (人中 番目)

2 生まれたのはどのような施設でしたか

- | | | |
|-------|----------|--------|
| ①総合病院 | ②産婦人科医院 | ③助産院 |
| ④自宅 | ⑤その他 () | ⑥わからない |

3. 赤ちゃんの時飲んでいたのは何ですか

- | | | | | |
|-----|-------|-----|----------|--------|
| ①母乳 | ②粉ミルク | ③混合 | ④その他 () | ⑤わからない |
|-----|-------|-----|----------|--------|



母乳と答えた方
いくつぐらいまで飲んでいましたか (歳 ヶ月) 頃まで

4.子どもの頃の家族構成は

(あなた・)

5.子どものごころ主に世話をしてくれた人は(複数回答可)

①父 ②母 ③祖父 ④祖母 ⑤その他()

6.保育園や幼稚園には何歳から入られましたか

①保育園(歳から) ②幼稚園(歳から)
③小学校入学まで在宅だった ④その他()

7.あなたはどのように育てられましたか

①たいへん きびしい ②どちらかといえはきびしい
③どちらかといえはあまい ④たいへん あまい ⑤よく わからない

8.子どもの頃、親に叩かれたことがありますか

①よくあった ②ときどきあった ③あまりなかった ④めったになかった

9.しつけとして、体罰は必要だと思いますか

①絶対必要 ②ときには必要 ③必要ない ④わからない

10.ご自身の出産より前に自分より年少者の世話をしたことがありますか

①ある ②ない ③わからない

11.子どものごころ親と離れて暮らしたことがありますか

①ある ②ない ③わからない

お差し支えなければ、日頃子育てについて感じたり考えたりされていることを自由にご記入ください



お忙しい中、ご協力いただきましてありがとうございました

研究会メンバー一覧

- 代表 松尾 恒子（甲南大学文学部教授）
青柳 寛之（甲子園大学助手・甲南大学学生相談室）
高石 恭子（甲南大学文学部助教授・学生相談室）
常井千恵子（甲南大学心理臨床カウンセリングルーム）
友久 茂子（甲南大学学生相談室）
西 隆太郎（ 同 ）
福井 裕子（ 同 ）
—以上・学術フロンティア研究員

- 大島 博子（甲南大学心理共同研究室）
江口 縁（甲南大学人文科学研究科）
甲斐 暁子（ 同 ）
辻野美千代（ 同 ）